

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 巧文



■ 埴生支所の件

すでにマスコミの報道等でご存じのことと思いますが、埴生支所において、市民の納付した市民税等の公金を、昨年10月から12月にかけて、臨時職員が13回にわたり合計約30万円を着服していた事実が判明しました。本人は昨年12月末日をもって退職しています。本人や家族の経済力から直ちに全額の返済を受けることが困難なため、返済については本人から誓約書を出してもらおうとともに、本年2月末日、警察に業務上横領事件として告訴しました。また、市役所内の懲戒処分は、直属の上司二人を減給10分の1（1か月）と戒告にし、私も任命権者として減給10分の1（1か月）を甘受することとしました。

反省すべき点は多々ありますが、私自身も、臨時職員の指導監督を職員任せにするのではなく、採用時には懇談の機会を持つなどして、臨時とはいえ身分は公務員であること、公金は市民から預かっている大切なお金で、決して一人では取り扱わないことなどの注意を与える必要があったのではないかと、深く反省しています。臨時職員は半年ごとに身分を更新し、最大3年間雇用を継続している現状ですが、半年ごとの更新時の面談も、たとえ短時間であっても必要であったように思います。今回の不祥事に対し、改めて市民のみなさんへお詫びし、再発防止を誓いたいと思います。

■ 「観光課」を新設します

4月1日から「観光課」が発足します。かねて本市は外に向けた情報発信が不十分だと評価されてきましたが、ようやく観光課の発足にこぎ着けました。何かと観光向きの各種資源はあるのですが、市政の上で観光に充てる予算がなく、合併後、観光への取り組みについては中途半端な状態で推移してきました。本市は萩市のような観光立市ではありませんから、観光を市の事業として立ち上げるにしても、観光立市と比較し、その目的や手法を模倣するのではなく、本市らしい、本市にふさわしい観光構想と観光事業があるはずだと考えています。多くの市民との協働作業はもとより、市役所内の横断的連携も不可欠で、1年経った後の観光課の事業評価は、文字どおり、本市の成熟度を測る一つのバロメーターと言っても過言ではないと思います。4月1日に発足する「文化・スポーツによるまちづくり」とも協力し合いながら、本市の更なる発展に役立つことを期待しています。

